いわき民報

發行所
いわき民報社
平市三町目一番地（電話三八一番）
編輯兼發行人 印刷人 千葉克巳
定價 日刊 一ヶ月 五圓 一部二十錢（但し夕刊なき日を除く）

萬一の際は實力接收
電産ゼネストに炭礦側大狼狽
八方對策樹立に躍氣の狂奔中

電産鬪爭協議會では全國一斉に十五日からゼネストに入るとのことに、萬一送電が中止された場合は常磐炭田各礦は水沒するのみが重大事態を惹き起すので東北石炭鑛業會では十四日東北配電に排水及び通風用等の保安電力のみは送電されるやう要請すると共に福島の聯合軍情報部へこの旨陳情、目下對策を練つてゐる一方日鑛勞組常磐地方聯合會並に磐炭聯では十四日午後一時から湯本町自治會館に聯合協議會を開いて、送電中止は炭礦勞務者の死活問題であると重視して全炭礦の電氣關係技術員を十五日早朝より待機せしめ、ゼネスト決行と同時に木戸、夏井の兩發電所及び湯本、植田その他の各變電所を實力接收して炭礦を守ることに決定、万全の對策をとると同時に配電勞組に送電中止の際には豫め豫告されたい旨を申入れた、これに對して配電側は豫告し得る際はするも本部指令がいつ來るや知れぬので或は豫告も得ぬこともあるやも知れぬと回答した、何れにせよ送電中止はその影響が國鐵の運休などより遙かに大きいので頗る成行を重視されてゐる

平遞從婦人部

平遞從婦人部結成式は十四日午前八時から同局樓上に開かれた吉河局長始め三浦委員長の激勵の辭について部長大河原ミツヨさんの決議文朗讀等あり全部員一丸となつて目的貫徹に邁進することを申し合せた

收穫皆無も三町歩
平市内の米作旱害調査報告

郡下の旱害は既報の如く高久、夏井、大野、豊間、江名、飯野等二百五町歩に達してゐるが、十四日平市農業會の報告に依ると市内も五十一町歩からの被害をみてゐるとあり、豊作に一大影響を投ずるものとして憂慮、降雨が待たれてゐる

▲舊平窪（質似井作、上岡作、四波、中平窪）三五町歩▲大室五町歩▲久保町八町歩以上は平作以下でこの外收穫皆無とみらるゝものも三町歩かある

作況調査員も任命
十六日郡食糧對策委員會召集
早場米と諸の町村割當を決定

石城地方事務所では十六日午前九時から同所樓上に食糧對策委員會を招集、九月危機突破の早場米と甘諸の各町村別割當を決定する、新たに調査委員各町村三名宛を任命して稲作々況面積をはじめ甘諸の作況、その他農作物の作付狀況等を調査せしめ主食の割當等についてはお役所仕事の惡評防止に乘り出した

南瓜配給

南瓜が疏菜として配給されます

平青果物荷受組合に十三日相馬方面から七百貫余の南瓜が入荷、この配給方法につき加配米としての特配は兎や角の非難があるので關係方面と協議の結果、疏菜として配給することに決したもの、組合側では今后も一般家庭に疏菜として配給します――と語つてゐる

湯本驛前の疎開地復舊

先づ鹿島組が新築

湯本町の玄關口驛前通りは強制疎開以來空地となつてゐるが、今度先づ鹿島組常磐出張所が事務所を新築した、これを機に今后續々建設され、昔にもました住宅事務所街實現されやうと期待されてゐる

舊玉川分離說も擡頭
第三校改築費地元負擔を繞り

小名濱町第三國民學校（舊玉川校）改築問題は町技術部の設計に依り、總工費六十萬圓を要することが明かとなつたので、この三分の一の二十萬圓程度を舊玉川の地元負擔となすことゝして野田、島兩部落へ各一萬八千圓宛、林城、金成、岩出を一學區として四萬圓、住吉、富岡、大原、岡小名各四萬圓と割當たところ、その負擔の尨大さに驚き何れも合併當時の口約を主張し、改築は合併條件中に含まれてゐるので今更地元負擔をなさしめることは矛盾も甚しい、この機會に小名濱から分離獨立すべしとの意見も擡頭、改築問題を繞り分村問題迄惹起されんとする空氣さへ醸し出されるに至り成行を注視されてゐる、然し一般的には三分の一程度の負擔も今日は已むなしとし今更ら分離なぞは時代逆行も甚しいとされてゐる

うたはう會
奉納素謠會

縣社飯野八幡宮で平市觀世流の鳥越一氏の主宰する"うたはう會"では十五日午後一時から縣社飯野八幡宮の例祭を機に奉納素謠會を社前で催すことに決定した、番組は"田村""小督"及び"猩々"の三番とある

湯本上中町
青年同志會

戰時中解散してゐた湯本町上町上中町青年同志會では、終戰と同時に文化並に政治思想の向上と體育の練磨を目指して復活することに決し去る一日復活結成式を擧げると共に活潑な活動を開始した、尚役員は左の通り

▼會長佐藤輝哉▼副會長瀬谷才吉、飯淵繁三▼企劃部五十嵐助市▼庶務大井▼會計九頭見

婦人の地位
十五日講演會開く

改正民法はしいたげられて來た婦人の地位を男子同樣に高めることに成つた反面、家庭生活を復雜化することになつたが、一般に改正民法が徹底せぬ嫌あるため平友の會では十五日午後一時から公會堂日本間に『法律上に於ける婦人の地位』と題する講演會を開く、講師は前平區裁判所長で辯護士開業中の菅間正英氏で會費一圓辨當持參のこと

小名濱臨鐵
業管實施

今朝八時期して

既報小名濱臨港鐵道從業員組合では既定の方針で則り業務管理を斷行すべく準備中だつたがいよ／＼十三日午前八時を期して斷乎業管に入つた

江名の三勞組經營へ
漁民勞組は縣委員會提訴

江名町江名鐵工所、中ノ作鐵工所及び岸浦造船所では各從業員勞組が待遇改善及び勞働時間の問題等を提げて會社側へ要求中だつたが、全面的に要求を拒否されたので、十三日正午を期して一齊に聲明書を發し、經營管理を實施した、尚江名漁民勞組も待遇改善を叫んで結成をみたが、これ又容れられぬので秋職場繰その他、秋刀魚漁を控へて乘船を拒否鬪爭を開始、縣勞働委員會に問題を移すことになつた

お急ぎの印刷は
平市紺屋町
加納活版所
電四百九番

鎌田の赤痢
猖獗極む

新患更らに四名

平市鎌田町の赤痢はその後益々猖獗を極め十三日更らに左記新患者四名が發生、合計十一名となつた、尚蔓延の兆があるので市役所では平警、醫師會等と協力、鎌田町民三百名の強制檢診を實施すると共にＤＤＴ液の撒布等を行ひ必死の防疫陣を張つてゐる、傳染の經路は最初發病した佐々木忠助（三ツ）方へ去月二十四日伊達郡の親戚から來た娘が下痢してゐたので、これから傳はつたものとみられてゐる

丹野三郎（五〇）、丹野政雄（二八）會田卓雄（一〇）、佐藤八重子（四ツ）

良質パンの製造開始
小麥粉七藷三の割合

（既報）綜合配給で非難の的となつてゐる米代替の味付パンが戰前の良質のものに生れ替つて十五日から市内にお目見得することに決定、平製パン所では關係方面と種々協議して小麥粉七藷三の割に更生して日産三千個を目標に頑張ることゝした、一時藷の入荷困難とも見られたが、じやが藷の見透しも漸くついたので兎や角の惡評一掃に乘り出したもの、尚蛆入りパンについては製パン所側で原因を調査してゐたが一部小麥粉に蛆虫が發生これを判らずに燒いたゝめ失態を演じたもの

佐野學氏の講演會

明日小名濱で

小名濱町會田寛氏等有志は十五日午后一時から國民學校で佐野學氏を聘して講演會を終つて會田氏方で座談會も開くが多數の來聽を望むとある

いわき寸言

▼採算割れで折角入山した炭燒夫も半數は下山したとある、冬を間近に控へ見逃せぬこと、確たる對策の樹立を切望する

▼江名三勞組遂に經營管理を斷行、愼重に實施し中途半端で終らぬやう注意することが大切

▼豊作豫想の時に旱害が暗い魔手を伸ばす、雨よ降れ！市郡民何れも天を仰いで祈る

▼小麥粉七藷三の良質パンいよ／＼製造開始さる、食事情の苦しい折柄嬉しい消息

▼鎌田町の赤痢いよ／＼猖獗を極む市民の協力一致完全な防疫陣を張るべし

▼國鐵のゼネスト中止とある、やつてみたところで、大衆の支持を失ふばかり、やらぬが花？

▼小名濱と舊玉川の分離說擡頭する、學校改築案もとんだ所へ飛火するもの、徒らに教育問題を政爭の具に供する勿れ

醫藥用、化學用其他
硝子製品一切の製造
新星硝子工業株式會社
平市佃町　電七一四番

此の度復員し從前通り左記に依り開業致しました
内科
小兒科
志賀醫院
平市南町　電一六二番
志賀政光

製品に絕對責任持つ
專門の當店へ
天幕・日除・雨覆・雨衣・リツクサツク其他附屬一切
製品委託加工
御報參上
平市六丁目六
敷島テント商店

製鑵工
工員募集
鋲打工
原圖工
取付工
瓦斯切斷工
穴明工
素入工
二十名
◇但し現場出張工事
希望者は履歴書持參本人來談のこと（平勤勞署）
平市彌宣町一
合資會社 程塚鐵工所
社長 程塚公

急募
一、男女作業員若干名
但し廿五才より卅五才迄
通勤可能の方
◎御希望の向は本人勤勞署又は營業所へ御來談を乞ふ
近納信義商店
棒炭製造工場
平市播槌小路三三
營業所 平市六間門一七 電二三

皆様の
輕るい
食事と
喫茶を始めました
皆様の御出でをお待ちして居ります
新扇屋
田町一 電八四五

磐中第三十七回卒業生に告ぐ

本月下旬同級會開催（日時場所未定）の豫定に付同級生は左記迄安否消息連絡ありたし

平市マルト七　柴田旭雄
[illegible]市下町一六　食糧營團　飯島司康
湯本町食糧營團　比佐幾造

昭和二十一年九月十三日
磐中三十七回同人會

十萬圓が生んだ効果は
市臨時衛生費の使途に見る

文化水準の低さを示すものとして、又風紀取締りの点から、從來兎角論議の種となつてゐた街路上の大小便の取締りは、愈々強化されて嚴重に處罰される事になつたが、さて強化を徹底すべき市民の衛生觀念を助長すべき、大平市の復興計畫に於て共同便所は如何になるプランにあるか、又市の衛生臨時費上十萬圓の中に共同便所費は幾何計算されて居るか、傳染病豫防週間と云ひ、衛生思想普及週間と云ひ、莫大な？宣傳費と人件費の蔭に果たして幾何の實際的効果があつたか

依然塵埃は山積
共同便所に至つては無計畫

臨時費に計上された十萬圓の衛生費は昆虫抑制班として四班に分けられた三十人の人件費に四万圓、藥劑代に三万數千圓機械具代及び諸雜費に三万數千圓とあつて跡方もなく消え果てゝ了ふ、夫で居て市内の塵箱に塵埃は山と積まれ捌白の果てには投棄禁止の燒跡や河川にどし／＼投げ込まれる、折角好意の消毒の裏にはこんな實情だ、もつとも一ヶ月に一回、二ヶ月に一回のゴミ集めでは致し方もあるまい、豫算がないからと係員は大すましでゐられるが市民の實情はそうは行かない、大小便の街頭進出でもそうだ、誰だつて好き好んで花恥ずかしい娘が空地の繁みを利用する必要はない急用なればこそ近くにないからこそ……、規則や文化水準を云々する前に何故そう仕向けてやらないか、半坪の共同便所の二つや三つどれだけの費用がかゝると思ふ？、暫定的なもので結構、一萬圓あれば三ヶ所位譯なく出來る筈だ、それだのに夫をやる熱がない、意氣がない之だから机上の空論と云はれお役人仕事と云はれる

熱意のない役員仕事

すべての弊こゝに塵箱や天水桶の調査にしても同様調査は命令に依る調査かも知れぬ、然し調査の結果、衛生上有害なる事實を認めた場合、之を除去する様手配するのは衛生課の仕事ではないか、粉食展示會前後の大掃除の際の塵埃を人夫がなくて始末出來なかつた点等良い見本である、何事にも隘路はある、そして隘路は理窟で説明される、だが隘路の打開は理窟だけでは打開出來ぬ、打開すべき熱と努力がなければならぬ、役人と云ふ肩書なるが故に熱と努力を求める事は不可能と云ふだらうか

高價買入レ
平市南町平舘隣り　中央會舘

強力な施策を
住宅難解決に市郡民の要望

本年は豊作の御蔭で食糧事情は何とかやつて行ける目當がつきほつと一息の態だが、寒さに向つて住宅の問題は依然解決されない、平市は二回に亘る空襲で燒失破壞家屋が八百戸、強制疎開で三百二十二戸計一千百二十二戸が失つてゐる、この上更に海外引揚者が四百余戸を數へてゐるから尠くも一千戸以上の住宅を建てねば住宅難は解決されない、それで市役所としては昨年復興課を設けてこれが對策に當り、先づ復興同樣を二十年度二百六十戸二十一年度三百戸二十二年度三〇〇戸計八百六十戸を建てようと鋭意努力中だが、現在個人で着工してゐるものが二百九十五戸、内竣工したものが二百二十戸に過ぎない、資材の暴騰や資金等の障害によつて工事を半に捨てゝゐる家屋も相等あり、建築費が高く坪三千圓から四千圓もかゝるので住宅を建てゝ貸そうと云ふ特志家は一人も無く住宅問題は步遲々たる歩みを續けてゐる現状だ、それで住宅難緩和策は國家又は公共團体に於て建てる事が強く要請されてゐる

住宅營團のアパート建設はその意味に於て市民から歡迎され完成を期待されてゐると同時に第二、三の手を打つやう強く要望されてゐる

泉村婦人會
引揚者援護

泉村婦人會では會長鈴木キミさんの發起の下に幹事總出で丸課で引揚げた海外引揚者の爲に各家庭から一家一品の寄附募集を實施、子供の着物、下駄、草履、足袋、手拭、食器等から薯南瓜等多數の收獲を見たのでこの程そつくり引揚者聯盟へ贈り感激せしめた

浮浪者群の身体調査を

市社會課が一斉に市内松ヶ岡及び驛構内を根城にその日／＼をさまよひ歩く浮浪兒及び浮浪者が最近目立つて來たので市社會課では平署の協力をもとめて十四、五の兩日これら浮浪者達の身元一齊檢査を實施する、就職に耐へ得る者は努めて斡旋の勞をとり、浮浪をも關係團体へ收容して兒や所の悪評を防止する、これ等檢査の結果を援護の資料に供し恵ぐまれぬ人達へ救ひの手をさしのばすことゝした

常磐炭礦に赤痢患四名

内郷町大字綴七反田常磐炭鑛の寮に十二日赤痢患者左記四名が發生した、平署、保健所では防疫班を出動させ町民と協力防疫に大童である

松川さない（一七）柏原重次郎一（七〇）本田包子（二ツ）加瀬ツマ（二七）

開放

投書を歡迎す
要望批判結構
紙上匿名可

文化運動に就いて
（下）

文化といふ言葉ぐらい亂雜に使はれてゐるものはない、で文化といふ言葉の使用に關して白柳秀湖氏の定義を拜借してみやう『文化といふことばは、『生活樣式』といふことにその概念を一定させたいものだ、その民族特有の言語、風俗、習慣その他一切の生活樣式が文化だ、文明といふことは蒙昧とか野蠻とかいふ人間生活の過程について來る一樣式であつて、文化といふことばと混用されてはならぬ。――だから蒙昧人にも文化はある、野蠻人にも文化はある。蒙昧文化、野蠻文化といふことが立派にいへるのだ。文化は決して文明人に限つたものではない、棒きれで地を掘るのも、貝殼で地を掘るのも、又鐵器で地を掘るのもそれ人の生活過程に於ける文化である。『文化住宅』だの『文化式』だのいふ、ちやぶつたり言葉は速かに新聞雜誌の上から消滅させてしまふことにしたい』（日本民族の血統及び文化）

借用ついでといふては失禮になるが『知的貧乏人は借りねば纏まらないから赦してもらいたい文學博士中村孝也氏の日本文化史要から『文化といふ言葉の意義は、形式的方面と本質的方面とから説明される、形式的方面は分觀と綜觀とに分れ、文化の見方には狹義――精神文化――廣義――物質文化――最高義――思想、政治、經濟の三つの綜合――と』があり中村博士は最高義を採るものだといはれてゐる理屈ばつたことは老生には苦手だし下手な文化の講義みたいなことは骨をおつてやつてみたところで笑はれるだけだからやめるとして、民主日本建設の指標は新しい文化國家の建設にあるといはれてゐるが、文化の香り高い國といふものは思想、藝術、科學等の發達してゐると云ふことは諸君も知悉されてゐるところだ、そして一國の文化を建全に向上發展せしむるといふことは政治の要諦であると政治家が我々にいふ文句である。松藻會の諸君が文化國家の建設を要望し郷土の文化發展に寄與し、政治的關心を持つたところで何等の不都合はないであろう

（武藤豊）

生活と文化

一茶の句にみる童心
（2）

秉石太郎

十四歳の時祖母と死別し、その翌年父は繼母との折合を顧慮して江戸に奉公に出した。その間俳諧に親しみ三十歳の春、

春立や彌太郎改め一茶坊

と高吟したがこの句にも童心がよく出てゐるではないか。この後四ケ年にわたり關西地方の旅に出、江戸に歸つてから俳諧で身を立てることになつた。三十九歳の春の父の病氣看護に歸省し有名な『みとり日記』をものした。之をみても四十近くの一茶が繼母にしひたげられ悪口雜言をつかれても默々としてゐる点があり、終始童心をもつゝ終つた俳人であつた。

その後父の遺産相續の件で異母弟の仙六と久しく爭つたが十年の後漸く解決して一茶もすこしばかりの不動産を得、郷里に定住する身となつた。そして五十二歳にして始めて妻をめとつて三男一女をあげたが皆夭折し、翌年その妻も文政六年に歿し、三度めとつた妻とは不縁となり、三度目の妻をむかへたのは六十三歳の時であつた。僅に十年の間に身内四人をなくしたのであるが

露の世は露の世ながらさりながら

はよくその心境をいひあらはしてゐる。

紛爭中の句に

古里やよるもさはるも茨の花
古里は蠅まで人をさしにけり

があり郷里に定住した時の句に

これがまあつひの栖か雪五尺

がある。

六十五歳にして燒跡の土藏の中でその波瀾ある一生を終り、一茶の曾孫にあたる人が小林の姓をなのつて柏原で豆腐屋をしてゐるといふ。

最后に一茶の生活を詠んだ句をかゝげてみる。之に由つてその生活をあはれんでみたい。

名月も御覽の通り屑屋かな
壁穴に我名物の御月かな
夕乙鳥に翌のあてもなし
蝶來るや何のしやうもないほとへ
芝居日と人はいふ也春の雨
涼まんと出れば下に／＼かな
雀子のはや喰逃をしたりけり
雁よ雁いつの年から旅をした
たまれ霰たんまれあられ手にたまれ
家なしも江戸の元日したりけり
あばら家や其身その儘明の春
涼風の曲りくねつて來たりけり
大の字に寢て涼しさよ淋しさよ
短夜をあくせくけぶる淺間かな
まけぬ氣やあんな小草も花が咲く
瞬めせ／＼とや泣子貰ひながら
連のない雁よ來よ／＼荷かさん
も一つの連はどうしたきり／＼す

（昭和二一、九、八）

いわき俳壇

はゝきぐさ　小野華丘

稲光ひろがりゆきて消ゆところ

ヒヒラギ方部句會即事

かな／＼や風呂の家の宵あかり
蛇いちごいちまいの葉の黄なりける
時計鳴れり南瓜畑に出てをれば
あの山の夕日大きいや青リンゴ
朝燒に手をあげてゐる子供かな
朝燒のあせたる路次の幾曲り
篁に日の當りゐる茅の輪かな
手花火の尖がまあるくならんとす
みづうみの雨しづかなりははきぐさ

ニッポンミシン販賣
誠實第一
三浦ミシン商會
平警察署前通り
電話八六四番

時計新入荷
◆……掛時計
◆……置時計
◆……腕時計
眼鏡、時計、萬年筆、ライター、喫煙用具　修理　販賣
長い間御不自由をさせましたが漸く準備が整いましたから是非御來店下さい
平市驛前銀座通り
誠光堂時計店

淑女に……紳士に……
コノ香リ・コノツケ心地
高級純植物性
S.Pポマード
全國有名化粧品店に有ります
本舗　東京
發賣元　平市揺拙小路SP商會